

事例7

< 事例概要 >

①30歳代後半/ 経産婦/ 自然妊娠。

②妊娠経過特記なし。

③妊娠 39 週に陣痛発来で入院。続発性微弱陣痛のためメトロイリンテルを挿入し、陣痛促進薬を点滴投与。誘発開始から約 4 時間後、子宮口は開大するが、児頭下降認めず。陣痛間欠 1～3 分ごとで、痛みの訴えと過呼吸様の呼吸。誘発開始から約 6 時間後、胎児心拍数低下と過強陣痛傾向のため陣痛促進薬の投与を中止。中止から約 1 時間、胎児心拍数波形レベル 2～3 で推移、痛みの訴えあり。中止から約 2 時間半後、息苦しさ、母体頻脈あり。その約 30 分後、意識消失。数分後に心停止、母体搬送依頼。意識レベル低下から約 30 分後、搬送先到着し、人工心肺を実施、輸血の投与を開始。到着から約 1 時間半後に CT 検査で子宮破裂と診断され、子宮摘出術を実施（死産）、術中出血量 12,000 mL 以上。児娩出から約 5 時間後に死亡。

④子宮破裂。

⑤解剖有、死亡時画像診断（Ai）有。